

コムズ仕事塾 Part2

あしたの明日のトビラをひらけ!

報 告

平成27年9月5日(土)・12日(土)の2回にわたり、開催しました。
第1回は、山田ひろみさん(砥部焼女性作家グループとべりて 代表)、
第2回は、田中佑樹さん(NPO法人 農音 代表理事)をゲストにお招きしました。
横山ぬいさん(株式会社エス・ピー・シー常務取締役)には聞き手をお願いしました。
現在、第一線で活躍されているゲストの方にも“しんどい”時期やそこから抜け出すターニングポイントがあったとのこと。以下にご紹介します。

それぞれのターニングポイントを語っていただきました



国の伝統工芸士(加飾)/
砥部焼女性作家グループ
とべりて 代表
山田ひろみさん

「佐賀県出身で結婚を機に愛媛に。知り合いもおらず、私生活でもいろいろと悩むこともありました」

「自分に自信を持つために、絵付師として一人前になりたいと思い、砥部焼の雛人形を製作したところ、それが大ヒット」
“雛人形製作”が作家としてのターニングポイントになったそうです。

「仕事をやめたいと思うこともたくさんありました。でも、目の前にある仕事をやり続ける先に何かがあると自分に言い聞かせて頑張りました。そのときから“継続は力なり”という言葉が座右の銘になりました」と語られました。

“とべりて”は「砥部焼」と「作り手」をかけた造語だそうです。

実際に作品を見せていただきました。

この素敵な絵柄は“ダリア”だそうです!





NPO法人 農音 代表理事
田中 佑樹 さん

「20代は東京でバンドマンとして

ライブ活動に励む日々」

「ほどほどに自由な時間も収入もあり

心地よかったが、それが逆に不安に」

「自分の人生、このままでいいのか？」

と考えたことがターニングポイントに。

“30代をどう生きるか？”

よりリアリティのある生活を求め、中島への移住を決意されたそうです。

現在は、柑橘農家・農音の代表理事・猫師として活躍。

その中でも、農家としての活動に力を入れているそうです。

「田舎には仕事がないと言われがちだが、仕事は作ればいくらでもある」

と語られました。

「農音」さんは
首都圏で活動していたバンドマンたちが
中心となって発足した
「音楽と農業で地域を結ぶNPO」です。



ネット販売している
“せとか”のジュース！
参加者のみなさんで試飲。
おいしいと評判でした。




参加者へのメッセージをいただきました

山田：私にとって仕事とは、まさに“生きがい”。自分を表現することがそのまま仕事につながる。良い作品を作るためには、自分自身がハッピーで前を向いていることが大切。

横山：仕事とは、お金のためだけではない。仕事が私たちに与えてくれるものは大きい。自分の心の声に耳を傾けて、やりたいことをやろうというチャレンジが自分を幸せにしてくれるのではないかと思う。

田中：私にとって仕事とは、島で“やるべき”と思うことをやっているだけ。地域の課題にこたえるのが自分の仕事。そして、仕事をしていく上で自分が“楽しい”と思えるかどうかということも大事にしている。



株式会社エス・ビー・シー 常務取締役
横山 ぬい さん

アンケートより

まるで一人の人間の人生を
紐解く番組を見ているようで、
興味深く参加できた

誰にも挫折体験や
ターニングポイントがある
のだと実感した

現在第一線で活躍されて
いるゲストのお話が興味深
かった

自分の生き方や生活を見直すきっかけになった